

# 1万人署名・国会追及で 『放射線のホント』廃刊を！

2018.11.25

放射線被ばくを学習する会・代表  
温品(ぬくしな)惇一

# 飲料水の放射能基準値・国際比較から、『放射線のホント』廃刊署名へ

- 2017年2月 読売新聞社説

“日本の飲料水放射能基準値は欧米より厳しすぎる”

復興庁パンフ『放射線のホント』、消費者庁パンフにも同じ誤り

- 2018年8月9日 厚労省、復興庁など三省庁交渉

飲料水放射能基準値・国際比較の誤りを認める

9月 復興庁の巻き返し「数値に誤りなし」

実は放射能基準値・国際比較表自体がトリックだった：  
事故翌年の日本と、緊急時の外国を比較

- 『ホント』の検討→基準値の誤りにとどまらず、**『ホント』全体がウソ宣伝・放射能安全宣伝だから廃刊を！**

# 復興庁パンフ『放射線のホント』



## なぜ復興庁が放射線パンフ？

ほんとは「放射能汚染されているから売れない、来ない」

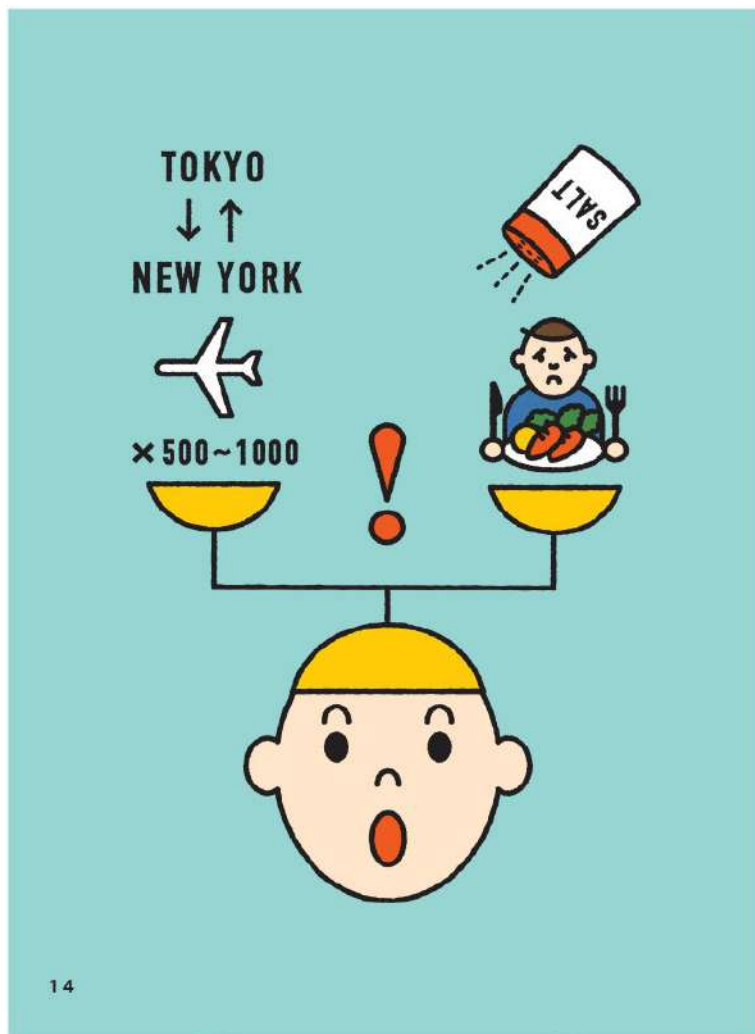
復興庁：放射能は怖いという誤解が復興の妨げ

パンフで誤解を解く→福島産食材が売れる、福島に修学旅行、観光に来るはず

合計配布部数：2万2千部

配布先：関係省庁、PTA大会（佐賀・新潟）、福島県内外イベント、その他イベントなど

# 『ホント』ウソ宣伝10ヶ条と結論



どれくらいの量なら健康に影響があるの？

100ミリシーベルト以上被ばくすると

がんで死亡するリスクが上がると言われていますが、

100～200ミリシーベルトの被ばくでの

発がんリスクの増加は、

野菜不足や塩分の取りすぎと

同じくらいです。

ちなみに100ミリシーベルトは、航空機で東京・ニューヨーク間を

約500～1000往復した場合の被ばくに相当します。

# 『ホント』のウソ宣伝

- 「ふだんの身の回りの(放射線の)量はわずかなので、健康への影響はありません」(11頁)
- 「放射線の影響は遺伝しません」(9頁)
- 100ミリシーベルト未満の放射線を受けた場合、検出困難(15-16頁)
- 「100～200ミリシーベルトの被ばくでの発がんリスクの増加は、野菜不足や塩分の取りすぎと同じくらいです」(13-16頁)

# 生活習慣リスクとの比較論

放射線のリスクと生活習慣のリスク、  
どっちが大きいかという問題じゃない！

福島原発事故による被ばくをゼロにするのは、  
東電や政府の責任であり、  
生活習慣リスクの大小と無関係

放射線と生活習慣とのリスク比較を持ち出すのは、  
被ばくさせている東電や政府の責任逃れ  
政府も福島原発事故の責任を認めないから、  
生活習慣リスクを持ち出す

# 「健康影響は出ていない、出ない」

- 福島原発事故の放射線で周辺の人々の健康に影響が出たとは証明されていません(17頁)
- 将来的に病気の人が出てくる心配はないの？
  - 「国連科学委員会の報告書では、今後のがんの増加も予想されない」と評価されています。

# 「心配しないで大丈夫です」

- 事故後7年で福島県内の**主要都市の放射線量**は大幅に低下し、国内外の主要都市と変わらないくらいになりました。
- 日本は**世界で最も厳しいレベルの基準**を設定して食品や飲料水の検査をしており・・・(23頁)
- 福島県では約190万人の人々が通常的生活を送っています。また、(避難指示が解除され)ふるさとに帰った人たちにも、**日常の暮らしが戻りつつあります**。



# 『ホント』批判パンフを作成

甲状腺がんの多発、作業員の肺がん死、「安全な被ばく量がない」など、放射線そのものが人々を苦しめています。



## 『放射線のホント』1頁

あれから7年。

未曾有の大震災と原子力災害から7年の月日が経ち、被害にあった地域も、徐々に復興が進んできました。

しかし、今なお新たな被害も発生しています。それは、偏見・差別や風評被害です。

(中略)

でも、そんな人々を苦しめているのは放射線そのものではなく、知識不足から来る思い込みや誤解です。

1

知るといふ復興支援があります。

## 放射線の ホント



復興庁

『放射線のホント』原文を読みながら  
問題点を考えてみました。



『放射線の  
ホント』って  
ほんとう  
なの？

放射線を受けると身体に悪いの？

放射線の健康への影響は

ある・なしではなく「量」が問題です。

ふだんの身の回りの量はわずかなので、健康への影響はありません。

放射線は見えませんが、簡単に測ることができます。

わずかな被ばくでも、

健康に影響があります。

「ふだんの身の回りの量はわずかなので、健康への影響はありません」は誤りです。

被ばく量が少なければ、影響が現れる人は減りますが、ゼロになることは、ありません。

自然放射線でも、累積1ミリシーベルト被ばくとすると子どものがんが増えることが報告されています。

スイスの15歳未満児童に対する自然放射線の影響

	累積1mSv当たりの危険度増加率
全がん	2.8%
中枢神経系腫瘍	4.2%

B.D.Spycher et al. (2015)

# ホントは危ない放射線 ホントに怖い放射能 わかっていること10のポイント

放射線は見える光の何十万倍ものエネルギーで飛んできて生き物を被ばくさせます。

放射線を出す元が放射能です。

1. 避けられる被ばくはゼロにするのが基本です。
2. 放射線はうつりませんが、放射能は移ります。
3. 放射線は遺伝子を傷つけ、突然変異を起こします。
4. わずかな被ばくでも、健康に影響があります。

(以下、資料を参照してください)

# 『ホント』撤回/廃刊の共同行動を！

渡辺博道 復興大臣 殿

「世界で最も厳しいレベルの食品放射能基準」 ???

ウソ宣伝の『放射線のホント』廃刊を求める署名



25頁(原文は縦書き)  
 福島第一原発周辺地域の人々は今どうしているの？  
 子どもや若い人は戻ってないわよ！  
 福島県では約190万人の人々が通常の生活を送っています。  
 また、県全体の面積の2.7%まで避難指示区域が縮小し、  
 ふるさとに帰った人たちにも  
 日常の暮らしが戻りつつあります。

上の文章は復興庁パンフレット『放射線のホント』の一文です。避難指示が解除された地域では「ふるさとに帰った人たちにも、日常の暮らしが戻りつつある」と宣伝されています。放射能に汚染された土地に戻ったのはほぼ高齢者ばかり。孫の顔も見られないのに、とても「日常の暮らし」とは言えません。『放射線のホント』はウソだらけです。

23頁には「日本は世界で最も厳しいレベルの基準を設定して食品や飲料水の検査をしており」とうたっています。ところがその根拠とされている24頁の表には見逃せないウソがあります。事故翌年4月以降の「平常」時の日本の基準値と、緊急時の外国のゆるい基準値とをくらべています。同じ状況でくらべなければいけないのに、**異なった状況の基準を並べて、日本の方が厳しく見えるようにしています。**

『放射線のホント』にはウソが多くトリックも使って、福島原発事故で何の健康被害も起きていない今後も起こらない、放射能は怖くないと宣伝しています。文科省の放射線副読本にも波及しています。学校で子どもにウソを教えるなんて、とんでもないことです。

税金でウソ宣伝している『放射線のホント』を廃刊にするよう求めます。

お名前	ご住所

## 放射線被ばくを学習する会

署名集約団体：放射線被ばくを学習する会 [anti-hibaku@ab.auone-net.jp](mailto:anti-hibaku@ab.auone-net.jp)

〒343-0838 越谷市涌生 2-16-33-102 温品(あぐし) 停一 090-3577-4844

第2次集約：2019年1月31日 第3次集約：2019年3月31日



復興庁の「風評払拭・リスクコミュニケーション強化戦略」に基づくパンフレット  
 「放射線のホント」の撤回を求める署名

復興大臣 渡辺 博道 様

「放射線のホント」は、復興庁が「風評払拭・リスクコミュニケーション強化戦略」に基づいて2018年3月に作成したものです。「原子力災害に起因する科学的根拠に基づかない風評やいびいのない偏見・差別が今なお残っている主な要因は、放射線に関する正しい知識や福島県における食品中の放射線物質に関する検査結果、福島の復興の現状等の周知不足と考えられます。」という認識に立っています。

「放射線のホント」は、問題のすり替え、事実でないウソ、実態の隠蔽に満ちています。

- ・国の原発推進政策がもたらした東電福島第一原発事故によって多数の住民が被ばくさせられました。「放射線のホント」には、この被ばくが国や東電に強いられた「不当な被ばく」であるという重要な点が欠落しています。
- ・放射線被ばくの健康影響は「量の問題」とされ、100ミリシーベルト以下では「抽出困難」とされ、放射線防護の原則が放棄されています。また、放射線の影響は「遺伝しません」と断定しています。しかし、政府が尊重する国連科学委員会や国際放射線防護委員会も、放射線による遺伝的影響を否定はしていません。
- ・「ふるさとに帰った人たちにも日常の暮らしが戻りつつある」と記載されています。しかし、福島県では未だに5万人近い住民が避難生活を余儀なくされています。やむなく移住した人も多数います。帰還した人々の多くは高齢者で、家族離散の状況にあり、事故前と同じ生活は営めず、医療・介護設備も整わない中、「日常の暮らしが戻りつつある」状況からはほど遠い現状を強いられています。

福島原発事故の被害はなかったことにする「安全宣伝」、「復興宣伝」は許されません。

要求事項：ただちに「放射線のホント」を撤回すること

セ	シ	サ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

## ヒバク反対キャンペーン、 脱原発福島県民会議など 放射線被ばくを学習する会

呼びかけ(11/1 現在)：脱原発福島県民会議、双葉地方原住反対同盟、原水禁止日本国民会議、原子力資料情報室、全国被爆二世団体連絡協議会、反原子力茨城共同行動、原発はごめん！ヒロシマ市民の会、チェルノブイリ・セパシヤ救援団、原発の危険性を考える宝塚の会、さよならウラン連絡会、若狭連帯行動ネットワーク、原発いばら！山口ネットワーク、核のごみキャンペーン・中部、さよなら原発なら県ネット、さよなら高根原発ネットワーク、原発さよなら四国ネットワーク、原子力行政を問い直す宗教者の会、川内原発建設反対連絡協議会、地球救出アクション 97、放射線被ばくを学習する会、安全食品連絡会、関西よつ葉連絡会、フクシマ・アクション・プロジェクト、さよなら原発神戸アクション、止めよう原発！！関西ネットワーク、遊女格クラブ、ヒバク反対キャンペーン

集約・連絡先	原子力資料情報室 ヒバク反対キャンペーン	東京都新宿区住吉町8-5 曙橋コーポ2階B 兵庫県川西市向陽台1-2-15 建部遷	Tel : 03-3357-3800 Tel&Fax : 072-792-4628
--------	-------------------------	--	--

第二次集約 2019年1月31日 第三次集約 2019年3月31日

取組団体

# 脱原発福島県民会議など9団体

- 2011.5 「住民の健康と安全を守り、生じた健康被害は補償することを求める要請書」をベースに、全国署名運動、14回の対政府交渉
- 『ホント』撤回署名17,000(うち脱原発福島県民会議 9800)

脱原発福島県民会議；県平和フォーラム、社民党県連など  
双葉地方原発反対同盟、原水爆禁止日本国民会議、  
原子力資料情報室、全国被爆2世団体連絡協議会、  
反原子力茨城共同行動、原発はごめんだヒロシマ市民  
の会、チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西、  
ヒバク反対キャンペーン

# 12.20 政府交渉

**12月20日（木） 12時半～ 参議院議員会館B107**

(1) **放射線のホント、放射線副読本**: 復興庁、文科省

各地から寄せられた署名を積み上げ、交渉

(2) **年20mSv基準の撤回**: 原子力災害対策本部

(3) **避難計画基準7日間100mSvの撤回**: 規制委員会

(4) **モニタリングポスト撤去方針撤回**: 同上

(5) **ALPS処理水海洋放出の撤回**: 同上

(6) **帰還困難区域の除染縮小（反対）**: 原災本部

**12月6日（木） 1時～4時 政府交渉に向けた討論集会**

アカデミー千石・学習室A 都営三田線千石駅・A4出口 5分

# 『ホント』廃刊の運動を！

1. 「放射能安全」宣伝→放射能への警戒心の解除  
→自分の健康を守れない
    - 2018年10月 文科省の放射線副読本に波及  
『ホント』ウソ宣伝10ヶ条と結論が盛り込まれた  
→子どもたちの健康がピンチ
  2. 「福島には健康被害は出ていない、出ない」  
→「賠償不要」、「再稼働推進」の世論誘導
- 私たち、子どもたち、孫たちのいのちを守るために！

# 1万人署名・国会追及で 『ホント』を廃刊に！



放射線のホント  
は廃刊にすべき  
です！